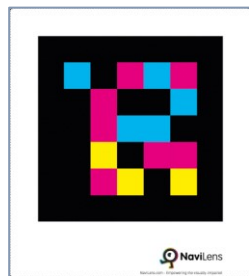


NaviLensを活用した視覚障害者の移動支援事業

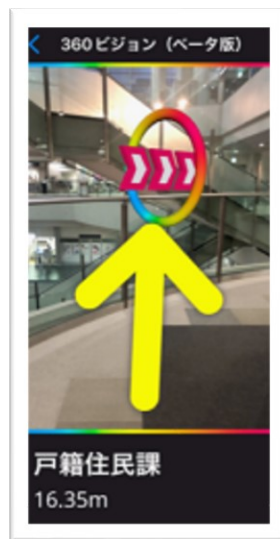
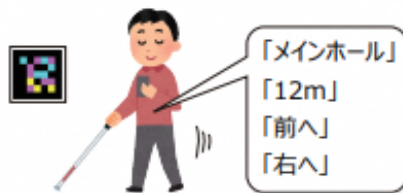
実施事業者：株式会社メジャメント

1 実証事業概要

- 文京シビックセンターの地下2階・1階・2階・9階に「タグ」と呼ばれる2次元コードを2022年11月から2023年3月の間、計80か所設置
- 2階戸籍住民課や9階障害福祉課のほか、トイレ、エレベーター、総合案内等への誘導を目的として設置
- 「ナビレンス」というアプリでタグを読み込むことで、視覚障がい者の移動をサポートする情報を音声で伝え、区役所内をスムーズに移動できるか検証
- 新機能「360ビジョン (β版) ※」の試行
※ スマートフォンのジャイロ機能を活用し、アプリで検出したタグを空間内でロックし、タグがカメラの視界から外れても案内を行う機能



[タグ]



※ タグの設置にあたっては、障害当事者の方と設置個所等を事前に確認

2 実施結果

- 2022年11月から2023年3月の期間で、延べアクセス数4,340回
- 体験者のうち計66名の方がアンケートに協力

[体験者の主な意見]

- タグを見つけることの難しさがまずあるので、タグの設置方法に関して、何かいい方法があるといいと思う。今回は高さが問題になるのかなと感じた。
- 右耳と左耳の間こえ方で方向がわかったので、曲がる場所がわかりやすかった。
- 施設の入り口にルート案内の起点があると、よりスムーズに移動ができるようになると思う。またそれと並行して、音声でのある程度の屋内の位置関係が分かるような説明もあると助かる。
- 各トイレの入り口にある「男性用」などの読み上げをしてくれるタグに、トイレ内の簡易的な配置説明があると、かなり助かる。
- 観光施設の説明や食堂のメニュー、公共トイレ、ホテルの客室、人がいなくて聞けない場所、個室になる 場所などがあると、困りごとの解決になる。
- 神経が音の方について、外界に集中できず、ちょっと怖いような感覚を覚えた。

3 今後の展開

「タグを見失う」ことに対する改善意見が最も多く、連続的に読み取りやすくなるよう「タグの設置高さ」や「スマートフォンの持ち方の固定化」等、ルールの一貫性が重要となる。

また、これまで人の往来が少ない博物館などと異なり、人の往来が多い場所においては、ぶつかりそうな時等の対応についても考える必要があり、胸ポケットへの固定、首からぶら下げるなどのソリューションも含めて利用者へ普及する必要がある。